

## 実践レポート

# 主体的・対話的な生徒会活動の実現に向けた手法の確立と実践について

## —コンサルタントとデジタル化による生徒会活動の再構築—

高松市立高松第一中学校  
教諭 篠原 賢人ジョン

### 1 はじめに

令和4年度の学校評価アンケートにより、委員会活動や係活動でやりがいを感じる生徒が少ないことが明らかになった。本校は校訓の一つ「創造」を柱に、学校創設時から生徒主体で生徒会活動が行われてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症による行事の削減や活動の制限から、本校の特色である交流活動や交流学習が衰退し、生徒の主体性が失われいつしか教師主導の生徒会活動へと形骸化してきた。このことが、アンケート結果に影響を与えていたと考える。また、令和4年度の県学習状況調査の質問紙における、「ICT機器をどの程度使用しているか」について、週1回以上と答えた生徒が18.5%と少なく、ICT機器を授業問わずに使用する教員が少ないことも本校の課題であった。

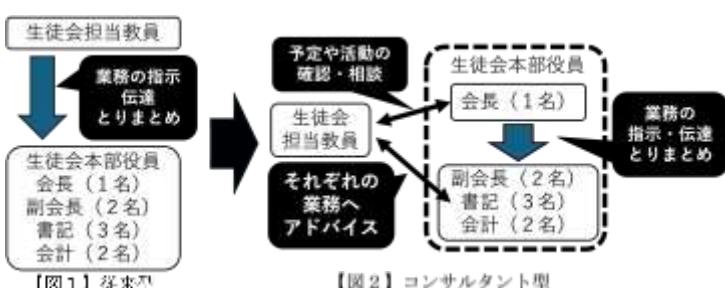
私は、令和3年度に本校に赴任し、令和5年度より生徒会担当教員として生徒会活動に参加してきた。令和5年度より、現状把握とともに改善案についての構想を練り始め、令和6年度より、「コンサルタント」と「デジタル化」の2点を要点とした生徒会活動の実践を行った。これにより、現代の校風に見合った主体的・対話的な生徒会活動を再構築し、生徒のICT機器の活用を促しながら、生徒の自主性や行動力を養うことで、生徒の自己有用感を育みたいと考えた。

### 2 実践の内容方法

#### (1) 実践に向けた、生徒の自主性や行動力を養うための基本的な考え方

##### ① コンサルタント

令和3年度から令和5年度までの生徒会活動は、図1に示されるような指示と伝達の関係であり、教師主導となっていた。令和6年度の生徒会活動より、図2のように生徒会担当教員がコンサルタント役として関わることを提案し、生徒会会長を中心に活動できる環境づくりを行うこととした。本研究のコンサルタントとは、「学校現場を熟知する教員が、生徒が主体となる活動や行事を支援するための専門的アドバイザー兼事務員」と定義する。



##### ② デジタル化

デジタル化では、社会に出た際に必要なPCスキルを身につけさせること、生徒と教員双方の業務の効率化や改善を図ることをねらいとした。具体的には、Microsoft Teamsを活用し、既存の活動をデジタル化した。このソフトを使用する主な利点は、次の3点である。

1：データの共有、共同作成が容易であること。

2：Word、Excel、PowerPoint、Formsなどのソフトウェアが使用可能であること。

3：投稿機能により、SNS のように意見交流を行えること。

また、過去の資料を調べ、生徒会新聞やアンケートは全て手書きで作成されていたことを確認した。手書きでの作成は、作品の作成に時間が掛かったり印刷物が増えたりすること、アンケートにおいては集計時の負担が想定される。Microsoft Teams を最大限活用し、生徒会活動の合理化を図った。

### ③ 教職員間の連携と理解

職員会議で事前に、教職員へ次の内容について周知と共有を図った。多くの教職員が、生徒会の動きに关心を持つことができるようになることで、生徒会本部役員（以下、本部役員という。）が活動に励みやすい環境づくりを行なった。

1：生徒主体の生徒会活動を実現するために協力して欲しいこと。

2：今後、生徒が教員へ直接相談や意見を聞きに伺うことがある。

（ただし、必ず生徒会担当教員と打ち合わせした上で行動であることも周知）

3：本部役員が相談に来た際は、「よい・悪い」に関わらず、遠慮なく意見を述べて欲しい、本部役員のコミュニケーション能力の醸成も兼ねているため。

## （2）実践の具体的な事例

### ① 小中合同運動会の児童・生徒会種目の企画・準備（前期生徒会）

本校は小中一貫教育校として、合同運動会を実施している。令和6年度より児童・生徒会種目は9学年合同で行うこととなり、新たな競技の検討が求められた。教員のコンサルタントとして、競技の考案に向け「必要な物品やアイデアで気になることがあれば、多くの先生をどんどん頼ってほしい」、「必要に応じて生徒会室を開放する」、「作業する人数が少なければ実行委員を募ったらよい」ことを助言した。その後、生徒が自分たちで養護教諭、小学校の教頭や教員へ相談に行き、準備を行った。また、本部役員が実行委員を募集するチラシをWordで作成した。作成したチラシは、給食の時間に募集の説明を兼ねて配布（図4）した。実行委員は、生徒会会长から作業や活動内容について指示を受けて活動した。競技は児童会の児童と実行委員が生徒会と協力して実施した。実施後、本部役員から「児童生徒

に対してアンケートを取りたい」と提案があり、Forms を用いて全校生へアンケートを作成（小学校1、2年生は紙面）、児童・生徒会種目の評価やペア学年での活動希望を調査し、生徒総会で報告した。肯定的な意見が多く寄せられ、本部役員は達成感を得ることができた。

### ② 生徒会の組織づくり（後期生徒会）

新生徒会の発足時に、めざしたい生徒会の姿を考える時間を設けた。本部役員から図7の意見に加え、「昨年度以上に、今年はできる限り自分たちで進めていく」という意見もあった。教員からは、「教員は本部役員のサポートをする」、「早めの準備や計画、そして先生方への理解が必要である」、「GIGA 端末をうまく活用してほしい」などを助言した。コンサルタントとして、本部役員の生徒会への思いを共有すると同時に、教員はあくまでもサポートをする立場である関係を確認した。



【図5】生徒総会のようす



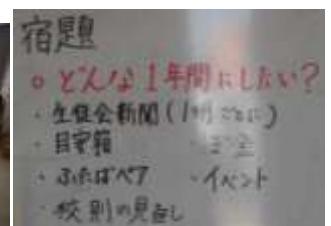
【図3】生徒が作成したチラシ



【図4】説明のようす



【図6】話し合いのようす



【図7】話し合いの板書記録

### ③ 生徒会朝会の実施（後期生徒会）



【図8】GIGA端末を用いた生徒朝会

目安箱の活用や、校則の見直しを行うなか、生徒会の思いや考えを知ってほしいという意見が、本部役員から出てきた。そこで、約4年間実施していなかった生徒会朝会を再び行うことで、生徒自身の力で全校生に思いを届けることができる時間を設けることを提案した。その他のコンサルタントとして、「日程調整の案を提示するので、教務主任へ確認をとること

て、「日程調整の案を提示するので、教務主任へ確認をとること」とある。

と、「各委員会で発表すべきことがあるか確認をすること」、「生徒会が主催する会なので、本部役員が最後にまとめの話をする」と助言した。その後、生徒会会长が役割を分担し、教務主任へ日程調整や各委員長への呼びかけ、各担当教員へ原稿を確認した。さらに、司会や発表の原稿はWordを用いて作成、校則の見直しの結果は本部役員自身がPowerPointを用いて発表した。添削の報告は、Microsoft Teamsの投稿機能を活用した。

#### ④ 教員向けへの企画提案（後期生徒会）

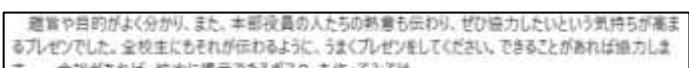
目安箱（意見箱）に、「ピンクシャツデーを行いたい」と投函があった。本部役員の、いじめのない学校をめざしたい思いもあり、PHP（ピーソクハートプロゼント）運動の企画を進めた。コンサルタントとして、「教員全体への理解を図る必要がある」、「教員向けの企画提案会を行い、自分たちの考えを伝えるのはどうか」と助言した。企画提案会の開催に向け、PowerPoint を用いて資料を作成し、プレゼンテーションの練習を行い、PHP 運動の意義について何度も話し合った。また、発表に向けて Word を用いて案内文を作成し、各教員へ直接案内を行った。当日は本部役員自ら教員へ企画提案と意見交換を行い、企画への理解を得た。また、本日役員が Forms を用いて教員へアンケートを行い、修正や改善を図った。



【図10】PHP運動説明会のようす

### 3 実践の成果

令和6年度後期生徒会本部役員にアンケートを取り、その記述から変容を読み取った。図12は生徒会会長が、図13は本部役員書記が記述したアンケートの一部分である。



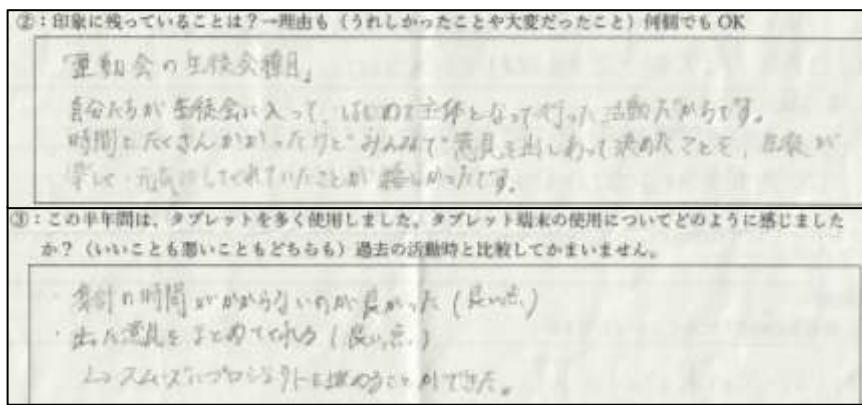
【図11】数回のアンケートの返答（一部抜粋）

### ③：半年間（9月から3月）の生徒会活動での感想

③: この半年間は、タブレットを多く使用しました。タブレット端末の使用についてどのように感じましたか? (いいことも悪いこともどちらも) 過去の活動時と比較してかわりません。

【図12】生徒会会長の記述（二回抜段）

生徒会会长をはじめとした、本部役員全員が活動を肯定的に捉えていた。特に、生徒会会长の「入念に話し合いを行い」や書記の生徒の「みんなで意見を出し合って決めた」などの表現から、本部役員が主体的・対話的に交流活動ができていたと読み取れる。実際、本部役員が集まる前には、事前に生徒会会长が議題の内容について確認や助言を



【図13】生徒会書記の記述（一部抜粋）

生徒会担当教員に求めるようになり、話し合いは自分たちでできるようになつた。また、生徒会会长の「楽しい気持ちが大きかった」や書記の生徒の「生徒が楽しく・元気してくれたことがうれしかつた」などから、満足感や充実感をもつてい

たと考えられる。加えて、「学校は良くなつていると感じる」と全員が答えており、充実感を持ち、自らの活動に自信をもつてゐたといえる。GIGA 端末の使用について多くのメリットや良さを挙げておる、使用が効果的であったと捉えられる。上記を含めたアンケート結果を基に、令和5年度以前と令和6年度以降の活動での比較し、本研究の成果をまとめると以下のとおりである。

- (1) 生徒会活動は、教員中心から生徒中心へと活動の主体を移行することができ、主体的・対話的な生徒会活動の再構築につながつた。
- (2) GIGA 端末を用いることで、活動の合理化を図ることができた。
- (3) 生徒会活動によって、生徒のやりがいや自己有用感を育むことができた。

#### 4 普及させたい取組と期待される効果

本実践で紹介した取組は、どの学校でも容易に導入できると考えられる。生徒会担当教員がコンサルタントを行うことは、教員が生徒サポートに徹するという心構えであり、生徒主体の活動への安心感や信頼につながることから、自治活動の向上に効果的である。近年、若年教員が増加しており、ベテラン教員から技を教授される機会が減つてゐるとよく言われる。このようなことからも、生徒会活動を任せられことが多い若年教員は、本実践をぜひ取り入れてみてはいかがと考えている。生徒会活動のデジタル化により、既存の活動を ICT 機器の活用によって負担軽減を行うと同時に、GIGA 端末を日頃から使用することにより、PC スキルが向上し、活動の効率化を図ることができるようになつてきた。このことから、新たな行事や取組に挑戦できるなど、一定の効果があると考えている。

以上、これらの実践は、生徒が人生の中で役立つスキルを生徒会活動で身につけることができ、自己有用感の向上に有効であると提言する。

#### 5 課題及び今後の取組の方向

今後の課題としては、PHP 運動の実施が学校全体にとって、どのような効果につながつたかを見取る必要がある。令和7年度から実施しており、本部役員が工夫をしながらさまざまな活動を進めている。その分析と検証をもとに、教員がコンサルタントに徹した生徒主体の生徒会活動の有用性を、私自身も若年教員に伝えていき、多くの生徒が活躍できるよりよい学校づくりに努めていきたい。

#### ＜引用及び参考文献＞

- ・文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「学校文化を創る 特別活動 中学校・高等学校編」
- ・大修館書店 明鏡国語辞典デジタル版 第二版